

「うめき1」

～被造物のうめき～

ローマ 8 : 18 ~ 22

ある人が船を操縦していると陸から2 km のところで船が故障しました。連絡する術もなかったので、彼は泳いで助けを求めに行きました。ところが、1 km 泳いだところで疲れ果ててしまったので、そこから1 km 泳いで船に戻りました。彼は往復で2 km 泳いでいたので、陸まで助けを求めに行くことができたのですが、彼は船に戻ったのです。私たちの人生にもこのようなことが多くあります。神様が私たちに持たれている計画は「将来と希望を与える計画」です。私たちは、将来と希望の計画を信じようとして生きていますが、もう少しのところで、神様がなそうとされている計画を忘れてしまい戻ってしまうのです。

1. ローマ8:18節「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。」

(1) クリスマン生活における苦難がある
(2) パウロの比較
(3) 「私は考えます」(ロギゾマイ)
私たちは自らが苦難にあうことを「私に問題があるからだ」「代償だ」と思ってしまう。しかし、神様の計画に従って歩もうとすると、「神がすべてのことを働かせて益としてくださる(ローマ8:29)」と聖書は言っています。私たちは人生を間違った道にハマルティア【意味：的を外す】させていきます。それによって問題が起こり、苦しみを通ります。それはいばらの道なので、元に戻ろうともがくときに棘が刺さり、そこに苦難が生じます。しかし、その苦難は私たちの不信仰や信仰の愚かさによって起こったことではなく、アダムとイヴの時代、自らが善悪を決めるようになったときから、道が踏み外されたのです。私たちはその時から、「栄化(元に戻る)」と「聖潔(きれいななる)」の道を通っています。今は戻っている最中なので、棘が刺されればそこを開けて洗い、棘をとります。神様の前にきれいになるため、治るために通っている道なのです。ですから、今、私たちが通っている苦難は、将来、神様が私たちに与えようとしておられる栄光に比べたら戦う余地もありません。神様が与える栄光からすると「取るに足りないもの」なのです。私たちが見ている「今」は、私たちの人生に虚無をもたらします。そのため、私たちは自らの人生を感情で決断しようとしています。しかし、感情的な根拠ではなく、知的理解(1+1=2)で考えなさいと聖書は伝えてくれています。私たちが納得したいのです。しかし、感情的なことについて、まだ見ぬ未来について納得することはできません。まだ見えないからです。それなのに、私たちは人の行動にも納得したいのです。納得できないと怒っています。先のことも分からず、相手のことも分からず、自分の心も分かりません。そんな私たちは、自らが判断の基準となり、神様が持っていることさえも判断しているのです。ある韓国の牧師先生がメッセージのなかで「神が正しいことをされるのではない、神がされるのが正しいです」と語られました。私たちは感情で右往左往していませんか？ 私たちの視線で神様を見ていませんか？ それをやめるために、今、「考えなさい」と言われています。私たちはもうすでに死んで、新しく生まれ変わったのです。主の栄光に変えられることを信じて進んでいきましょう。

2. 被造物のうめきの原因(ローマ8:19~20)

「被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。(ローマ8:19-20)」
(1) 被造物の擬人化はヘブル的手法
(2) 被造物に責任はない
(3) 責任はアダムにある
(4) 被造物には望みがある
クリスマンの最大の使命は、この地球が回復するように管理し、努めることです。それには、私たちが自らをコントロールし、地球を治めなければなりません。地球が私たちに患難を与えるのは、私たちが地球を壊したからです。被造物は自ら虚無になったのではなく、服従させた方がおられるので、彼らはもう一度この地が回復される時がくると信じています。この地でさえ信じ、待ち望んでいるのです。彼らがうめいて、神様に求めているので、私たちの人生もそのようになると聖書は伝えていま

す。人間は壊し、失敗しましたが、神様はそれを回復させるお方です。被造物も神の子どもたちが現れるのを待っています。地球の最後の回復とは、聖書が伝えている千年王国のことを言っているのです。

3. 被造物のうめきの解決(ローマ8:21~22)

「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます(ローマ8:21)」

(1) キリストの再臨との関係
(2) 次に地上に千年王国が成就する
(3) アダムの墮落以来、今に至るまで、自然界は崩壊しつつある
「栄化(元に戻る)」が完成するときまで、私たちは着実に戻っていきます。信じるのがすべてのスタートです。信じて決断するだけで、神様は私たちに造りかえてくださいます。エデンの園の状態が回復することは、被造物が滅びの束縛から回復されることなのです。
「私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしています(ローマ8:22)」
この「ともに」とは「私たちとともに」という意味です。私たちは、被造物が私たちとともに、産みの苦しみを通っていることを知っています。今、苦しみのなかにあるということは、出産を待っている状態です。出産は痛みをとまいませんが、そのあとには喜びが待っており、その激しい苦痛を忘れてしまうほどです。ですから、私たちは目の前にある問題を、信仰を通して乗り越えるときに道が開きます。しかし、私たちが諦めて引き返そうとしたら、私たちの過去が私たちに打ち破ります。戻るといふ行為は、神様の恵みを無にする瞬間であり、過去に囚われ続ける人生になってしまいます。今、私たちにある苦難は意味のない苦しみではなく、新しい世界が現れるための苦しみなのです。
私たちは今、何を見ているでしょうか。見えるところに目を向けていないでしょうか。私たちが見るのは、見えないものに目をとめる「確信」と「信仰」です。主が与えようとしている将来は私たちに栄光を与える神の計画です。神様は苦難のなかで栄光に帰ります。過去の古い人生に生きることをやめ、神様のもとに帰る人生を選ぶ決断をしましょう。

『アメイジング・グレース』をつくったジョン・ニュートンの人生は、神様の道から外れる人生でした。ある時、大嵐に遭い、もう人生がダメだと思ったとき、彼は船の甲板に出て祈りました。彼がしたことは「主を信じる」ことでした。その後、船は岸部に着き、彼は助かりました。彼はこう言っています。「私にはわかる。祈りを聞き届けてくださる神は存在する」。彼の人生は苦難でしたが、神様はそんな彼を養い、導き、許し、回復を与えてくださったのです。

アメイジング・グレース(直訳)

何と美しい響きであろうか
私のような者までも救ってくださる
道を踏み外しさまよっていた私を 神は救い上げてくださり
今まで見えなかった神の恵みを 今は見出すことができた
神の恵みこそが私の恐れる心を論し
その恐れから心を解き放ち給う
信じる事を始めたその時の神の恵みのなんと尊いことか
これまで数多くの危機や苦しみ、誘惑があったが
私を救い導きたまうたのは 他でもない神の恵みであった
主は私に約束された 主の御言葉は私の望みとなり
主は私の盾となり 私の一部となった
命の続く限り そうだ この心と体が朽ち果て
そして限りある命が止むとき
私はベールに包まれ 喜びと安らぎの時を手に入れるのだ
やがて大地が雪のように解け 太陽が輝くのをやめても
私を召された主は永遠に私のものだ
何万年経とうとも 太陽のように光り輝き
最初に歌い始めたとき以上に
神の恵みを歌い 讃え続けることだろう

(要約者:岡本 享子)

(2019年7月28日)